

船井情報科学振興財団 留学報告書

第7回: Lent & Easter Term 2023-24

Funai Overseas Scholarship 2021 年度奨学生
磯部知弥

2024年5月

1. はじめに

2021年度奨学生として、2021年10月からケンブリッジ大学博士課程に進学した磯部知弥と申します。前回11月の留学報告書以降の進捗について報告します。

2. 研究進捗

前回報告書でご紹介した論文の出版後、様々な共同研究プロジェクトの依頼をいただくようになりました。多くのプロジェクトは、他施設の実験系の研究室や、研究室内の実験系のポストドクと共同で進めているため、「自分がデータ解析側のタスクを処理し、チームで次の実験計画を話し合うと、またしばらくは実験側のターン」という形で、打ち返しては、跳ね返りを待つ間に別プロジェクトを打ち返す、という形で何とか回しています。Bioinformaticianとして、「このデータにはどんな面白い情報が隠れているか、どれだけの情報を取り出せるか」と考えながら、生物学的な知識を総動員してデータを解釈し、実験的に検証可能な仮説を立てていく作業は非常に楽しいもので、担当プロジェクトが増えるにつれてタスク管理にはやや苦勞していますが、やりがいも強く感じています。

私の研究テーマの中心は血液学、とくに白血病と、白血病の発生源地としての造血幹細胞・前駆細胞ですが、現在、より分化した白血球である免疫細胞や、造血幹細胞を維持する骨髄の間質細胞の発生・機能なども扱っていることから、免疫学や骨髄環境、骨発生など、自分の知識の中心外にあった領域への理解も深まり、血液学の奥深さを実感しています。これらの共同研究プロジェクトも、解析が進み成熟してきていますので、何とか近いうちに論文への道筋をつけられればと考えています。

成果面としては、以前の論文で発見した、急性骨髄性白血病の予後を予測する遺伝子群(Stem11)の迅速診断キット開発プロジェクトが、英国の Medical Research Council (日本のAMEDに相当)から約£50,000の研究費を受けることができました。日本国外で獲得した初めての研究費で、大変嬉しく思っています。現在迅速検査キットのプロトタイプを作成し、テストのための患者検体を収集しているところです。

3. おわりに

留学開始から2年半が経ちました。少しずつ結果も形として得られていることに加え、共同研究での人的つながりや、様々なプロジェクトから得られる知識・経験など、目に見えない成果も強く感じるようになってきました。改めて、本留学を支援いただいている船井財団の皆様へ感謝申し上げます。ケンブリッジ開催が決まった今夏の交流会では、また財団・留学生の皆様と意見交換・交流できることを楽しみにしております。